



小中自主参加講座

～オンライン開催～

7月26日から7月30日の期間に、小中自主参加講座（4講座）が、Zoomによるオンラインで開催されました。延べ318名（本島245名、離島73名）の域内小中学校の教職員の参加がありました。校内研修として全教職員参加の学校もありました。

学習指導要領の全面実施に関連し、学校の教育課題に即した講話や事例紹介、質疑応答等を通して、参加者は、新しい授業の在り方や、子供との関わり方について学び、考える機会となりました。

【開催された講座】

①小学校国語科の授業づくり

- 【講師】 琉球大学教職センター 教授 上江洲 朝男
 【内容】
 ○「主体的に学習に取り組む態度」の評価について
 ・「関心・意欲・態度」の評価とのちがい
 ・これまでの5観点での評価とのちがい
 ○実践事例

②算数科における授業づくり

- 【講師】 琉球大学教職センター 准教授 上原 正人
 【内容】
 ○「資質・能力」について
 ○数学的な見方・考え方
 ○「問い」が生まれる授業
 ○指導観の問い直し

③SDGsと教育活動

- 【講師】 沖縄キリスト教大学院大学 准教授 玉城 直美
 【内容】
 ○「ESD・SDGsの推進が謳われるようになったけど、何からやったらよいか」を共に学びましょう
 ○主体的な深い学びにつなげるために、参加型教材を用いながら、県内SDGs事例を共有します

④特別支援教育

- 【講師】 臨床発達心理士 新垣 香代子
 （しののめ教室指導講師）
 （琉球大学教育学部附属小中学校スーパーバイザー）
 【内容】 チーム支援で支える子どもの育ち
 ～子どもの発達の特徴を自分ごととして考える～

【参加者の感想】

【小学校国語科の授業づくり】

- 学年で単元に入る前に評価や手立てについて話し合うことも大切だと感じた。
- 自分の正解に子供を当てはめようとせず、子どもが学びを深めている具体的な姿をもっと見つけていきたい。

【算数科における授業づくり】

- 子供が発言したことをキャッチし板書に残していくということが、とても大切だと分かった。
- 見方・考え方を意識した授業づくり、児童から何を引き出したいのか、目的を持った授業を行っていきたく強く思った。

【SDGsと教育活動】

- 今まで特設授業など『点』であった学習を『線』で捉えたり、子供たちの思考の流れをSDGsの視点で捉えたりと、できることから私も実践していきたい。
- それぞれのGoalsが自分たちの暮らしにどう密接に繋がっているのかについて自分事として考えることは大切だと思った。

【特別支援教育】

- 2学期以降どのように支援をしていこうか悩んでいた中で研修だったので、個別の教育支援計画をチームでつくることが大切であることに改めて気付かされた。
- 子供やその保護者の立場を理解して支援を進めることの大切さを改めて知った。

9月の主な予定

1	水	しののめ教室教育相談（～9/3）
2	木	室内検討会（プレゼン）
6	月	ミーティング
7	火	所内検討会⑤（プレゼン） 幼児教育短期研修（充実）② Zoom
13	月	ミーティング
15	水	前期研究報告会 前期修了式
16	木	しののめ教室スタッフ会議
17	金	所外研修
20	月	敬老の日
21	火	しののめ教室合同食育教室 後期研究員入所前研修会
22	水	研究協力員研究授業 [小学校特別活動]
23	木	秋分の日
24	金	ミーティング
27	月	所長講話IV
30	木	しののめ教室合同体育 しののめ教室スタッフ会議 前期教育研究員退所

しののめ教室合同工作教室



講師の福田英昭教授

7月13日（火）南部総合福祉センター大ホールにて、地区内適応指導教室合同工作教室が、琉球大学教育学部の福田英昭教授を講師に迎えて行われました。子供たちは「メビウスの輪」や「紙飛行機」「紙ブーメラン」づくりに挑戦しました。上手に、遠くまでとばせるように試行錯誤しながら、熱心に取り組む様子が見られ、楽しく作品を完成させていました。完成した作品を大切に持ち帰る子供たちの嬉しそうな笑顔がありました。福田先生の丁寧な御指導のおかげで、子供たちはとても貴重な体験をすることができました。